

平成29年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	河口湖線			事業者名	富士急山梨バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	河口湖	膳棚・旭日丘	御殿場駅		
系統キロ程 (km)	37.9	輸送量 (人/日)	85.2		
平均乗車密度 (人/便)	7.1	運行回数 (回/日)	12.0		
公共・拠点施設	学校	御殿場西高校、須走小・中学校、山中湖小・中学校、富士吉田市立看護専門学校、日大セミナーハウス			
	病院	富士吉田市立病院、渡辺整形外科			
	商業施設	JA御殿場、キリンデスティナリー、ケーズデンキ、JA須走、道の駅すばり、ファナック、道の駅富士吉田、都留信用組合			
	その他	御殿場市立図書館、御殿場市民会館、須走支所、自衛隊富士学校、山中湖村役場、山中湖郵便局、自衛隊北富士駐屯地、上吉田コミュニティセンター、須走浅間神社、天恵、森の駅旭日丘、文学の森公園、忍野八海、さかな公園、忍野温泉、北口本宮富士浅間神社、富士急ハイランド			
収支率 (%) (収益/費用)	91.5		乗車人員 (人)	212,690	
乗換可能なアクセス拠点等	拠点3 バス停11	名称	拠点：JR御殿場駅、富士急行富士山駅、富士急行河口湖駅 バス停：湯沢、くみ沢、図書館前、須走浅間神社、山中湖旭日丘、山中湖村役場前、富士山山中湖、忍野入口、セメ草、横町、警察署前		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	81.5				
増収策	<p>ア. バリア解消のため、低床バスを積極導入した。 (大型超低床：2両、中型低床：6両)</p> <p>イ. 利用者に配慮した取り組み ①接客コンテスト開催による乗務員・窓口係員の礼儀・列儀強化を図った。 ②富士登山バスの利用者に「富士登山下山間違え防止マップ(日・英)」を作製・配布した。 ③「河口湖駅」コンシェルジュデスク横に旅行業カウンターを設置。H29.4～</p> <p>ウ. イベント等への積極参加・団体等へのセールス・P R活動 ①バス利用案内戸別訪問の継続実施。(H26.11～継続実施。143件) ②「やまなし公共交通フェスタ」に参加し、バス利用 P R 実施。 ③ 富士吉田よい子の花火大会でバス車両展示 ④ 登山・アウトドア情報アプリ「Y A M A P」内に公式アカウント「富士急ハイキング」を実装。 公共交通によるハイキングの P R を開始。H29.9～</p> <p>エ. 乗合バス全線乗り放題・インバウンド企画商品「富士山フリーバス」を発売開始。H29.7～</p>				
費用削減策	<p>ア. 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等について、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を図った。</p> <p>イ. アイドリングストップ強化月間の実施や幹部職員による点呼など、乗務員・職員への声掛け、街頭監査による注意喚起により、費用削減を図った。</p> <p>ウ. ドライブレコーダ (H25年度内で全車搭載済み) を活用し、事故防止に役立てることで事故による修理費等の削減を図った。</p> <p>エ. 車両の更新により、燃費効率の向上と修繕費の削減を図った。</p>				
沿線市町のサポート	別紙のとおり				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 7.1</p> <p>運行回数(回/日) 12.0</p> <p>収支率(%) 91.5</p> <p>乗車人員(人) 212,690</p> <p>アクセス拠点(箇所) 11</p> <p>広域利用状況(%) 81.5</p>				

運行路線図 (第6号)

運行系統名	運行系統				
	起点	経過地	終点	キロ程	色別
河口湖線	河口湖駅	膳棚、旭日丘	御殿場駅	37.9km	—

富士急山梨バス株式会社

【運行割合算定】※主系統
 ①河口湖駅～籠坂峠 20.51km
 ②籠坂峠～県境 0.77km
 ↓
 ①山梨県運行エリア =21.28km (56.1%)
 ②静岡県運行エリア =16.63km (43.9%)
 合計 37.91km

【主系統と異なる区間】
 ①忍野入口～梨ヶ原 3.60km
 計1区間
 ⇒10%以内かつ10km以内を適用する。

【設定系統】
 16-8 河口湖駅～膳棚～旭日丘～御殿場駅 **※主系統**
 37.91km
 16-6 河口湖駅～旭日丘～御殿場駅
 35.91km (主系統との差異2.00km 5.3%)

H27.4.6～「御殿場プレミアム・アウトレット」発着便は適用除外。

